

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さん自身が、これまで努力と研鑽を重ねた結果、本学に入学するという目標を達成されたことに対し、帯広大谷短期大学を代表して、心よりお祝いを申し上げます。また、その志を支えてくださった、保護者、ご家族並びに関係者の方々に対し、心よりお慶び申し上げます。また本日は、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜りましたこと厚く御礼を申し上げます。

皆さんは、今、様々な思いを胸にこの入学式に臨んでおられると思います。これから始まる大学生活は、皆さんをキャリアアップし、将来の進路をより明確なものにする貴重な時間となります。これからの学生生活を有意義なものにしていきたいと思えます。

帯広大谷短期大学は、1960年に国文科を設置し、短期大学としてスタートいたしました。その後、1962年に生活科学科として栄養学科、1966年に社会福祉科に子ども福祉科、1988年には介護福祉科が設置され、これまでに多くの卒業生を社会に送り出して参りました。さらに去年2023年には、短期大学では道内初めての看護学科が新たに設置され、現在では3学科5専攻を有する短期大学となりました。本学は、栄養学、栄養学、福祉学、看護学を基盤とする実務、健康、福祉、医療を学べる十勝で唯一の短期大学となりました。本学では、多様なニーズに応えるとともに学園の伝統である豊かな教養と感性を身につけ、専門性を持った人材を育成しております。

今日、日本は、先進国特有の「少子化」と「高齢化」が進んでおり、日本の出生率は世界的にも低く、高齢者の割合は世界で2番目に高い状態となっています。少子化では、出生数が過去最低の80万人を割り込む見通しで、少子化が進むと社会や経済に深刻な影響が出てきます。子どもを産み育てやすい環境や高齢者の受け入れ施設の整備などが急務である状況です。皆さんも身近な問題としてそれを実感されていると思います。これらにかかわる問題は今後さらに複雑に絡み、社会に問題を提起してゆくものと思われまます。

また2019年に発生した新型コロナウイルス感染症は、世界中に拡散し、日本においても、行動制限が示され、日常生活が一変しました。新型コロナウイルス感染症の拡散に伴い、皆さんの学生生活は大きく制限され、コロナウイルスに振り回された数年間であったと思います。しかしながら、皆さんはコロナ禍を乗り越えられ、今日のこの日を迎えられました。さらに、世界に目を移しますとロシアによるウクライナ侵攻による、さま

さまざまな原料、資材、エネルギーの高騰が世界的な問題となつています。その他にも環境問題やエネルギー問題とも関連する気候変動、飢餓や貧困の問題など日本にも直接的、間接的に影響を及ぼす課題が次々と起こつていきます。これらの問題解決に対応可能な人材の育成が急がれています。一方、近年AI（人工知能）を中心としたデジタル技術を複合させ、課題を解決し、変革する動きが広がっています。AIを搭載したロボットなどの登場で、私たちの生活はより豊かで便利になっていくと思われれます。それにより私たちの生活様式や価値観も変化していくことが予測されます。このように世界的な変化・変動に影響される日本社会の大きな変化に対して、本学では、広い視野に立ち、問題点を的確に見出し、現場に適應できる知識や実践力を有する人材を育成することにあります。

入学生の皆さんは、これから各専攻に所属して学修を積み重ねることとなりますが、大学は、自ら主体的に学習することに加えて、自分の進む道や将来を決めるための、新しい大きな学びを進める場所になります。言い換えればそれは、自らの意思で新しい発見を求めて行う専門的な学びとなります。

新入生の皆さんは、今まさにこの新たな学びの世界の入り口に立っており、これからいろいろな学問分野の世界に踏み出すこととなります。学問を進める上で大切なものは人と人の出会いと交流です。大学では、新しい友人、知人、教員や職員と多くの人々との出会いがあると思います。

大学生活における課外活動も大学における人材の育成に、欠かせない重要な要素となります。皆さんには学業の他に、クラブ活動、サークル活動やボランティア活動などの課外活動にも積極的に参加していただきたいと思ひます。積極的に活動することによって大学生活はより豊かになります。また地域の方々と交流し、多様な人々の考えや文化に触れることにより豊かな人間性が育まれます。

最後に、皆さんが、それぞれの目標に向かって、悔いのない学生生活を過ごし、実務、健康、福祉、医療の分野の専門知識、社会に通用する教養、社会情勢の変化や課題に対応可能な応用力やコミュニケーション能力を身につけ、人間的に大きく成長されることを心より祈念し、式辞といたします。

令和6年 4月3日

帯広大谷短期大学学長 大森行雄